



彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク

あったかウェルねっとニュース 第44号

2025年4月4日発行

ホームページ <http://attaka2025.stars.ne.jp/>

あったかウェルねっとの「ウェル(WELL)」は、Welfare(福祉)、Well-Being(幸福)のWell(大切にという意味)で、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたい、との願いが込められています。

新年度を迎えた4月。寒暖の差が大きく桜も戸惑っているかのような春です。2025年問題といわれる年ですが、通称の「あったかウェルねっと」に相応しく、あたたかい「ふ・く・し」の輪を広げて行きましょう。

2024(令和6)年度をふりかえって

事務局長 須田正子

昨年5月の総会に続く研修会は、若者への福祉教育研究会、県社協の地域福祉推進プラットフォームとの合同開催で行なわれました。

ここ数年はコロナ禍と相まってオンライン開催が続いていましたが、2024年度は久しぶりに対面での実施となりました。一堂に会し、ぬくもりを感じつつあたたかい場になっていました。

原田正樹先生の基調講演で世代や分野を超えてつながるために必要なことを学び、木野ゆずき副代表との対談、多世代・多様な登壇者の方々によるトークリレーと続けました。

「地域で共に生きる」と題して「幸せな未来」に向けともに歩むために、みんなで考え合う時間になりました。あったかウェルねっと24年の「これまで・今・これから」を再確認する機会でもありました。

また、年が明けてからは全2回の推進員養成研修を実施することができました。新しい出会いがあり、学び合うこと・知り合うこと

の大切さも再認識しました。(詳細は2ページ)

今後、福祉課題はますます多様化し、複雑・複合化していくことでしょう。これまでの活動を活かしつつ「ふだんの・くらしの・しあわせ」を胸に、地道にあたたかなつながりを紡いでいきたいと思います。

総会・研修会のお知らせ

月日： 2025年(令和7年)5月17日(土)

会場： 女子栄養大学坂戸キャンパス

5号館A棟2階文化表現ホール

(住所：坂戸市千代田3-9-21)

東武東上線若葉駅より徒歩3分

**2025年度ねっと総会**

11時 総会開会～11時40分 議事終了

11時40分～11時50分 情報交換他

対象：正会員・賛助会員及び会員を希望する方
申込み締め切り：5月9日(金)

1) 氏名、2) 連絡先 TEL、3) 市町村名、4) 所属を明記し、事務局までお申し込みください。

総会の申込先：ねっと事務局(須田)

メール：attakawelnet@gmail.com**2025年度ねっと研修会**

若者のふくし教育研究会と合同開催

共催：鶴ヶ島市社協、川越市社協、坂戸市社協

協力：女子栄養大学坂戸キャンパス

**「地域でつながる若者のちから」
若者と一緒に考えるみんなの“ふ・く・し”**

研修会 13時15分 開始～16時00分 終了

参加費 無料

対象 関心のある方ならどなたでも

〈内容〉

基調講演：日本福祉大学 学長 原田正樹氏

「若者と一緒に考える地域共生社会とは～」

実践報告：ファシリテーター

女子栄養大学 深田耕一郎氏

(1) おおぞら高校川越キャンパス卒業生

“おおぞらサロン”メンバー

(2) 筑波大学附属坂戸高校卒業生

こども食堂“ひこうき雲”メンバー

(3) 西入間青年会議所

グループワーク「地域共生社会を目指して若者と一緒に考える福祉教育プログラム」

若者のふくし教育研究会のこれから (キックオフ)

〈目的〉

若者が社会課題に対して主体的に取り組む「サービスマーケティング (学びながら社会貢献する活動)」の事例を共有し、参加者全員でその意義や可能性を一緒に考え、これからの共生社会について学び合うことを目的とします。



研修会の申込みURL

<https://forms.gle/1XTUcHRkxkz8ogZH7>

皆様のご参加をお待ちしています！

報告 推進員養成研修(全2回)

「令和6年度あったかウェルねっと福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修」(全2回)をおこないました。2日間受講の30名を推進員に認定しました。

……【第1回】……

日時：1月21日(火) 10時～15時

会場：すこやかプラザ2階 研修室1・2・3

(1) 講義「地域共生社会の実現に向けた福祉教育の推進～ともに生きる力を育むために～」

講師：熊井英朗氏(埼玉県社会福祉協議会 地域福祉部長)

(2) 演習：実践者による事例発表「東松山市の小・中学校での『ふくし』の学びについて」

講師：中島 満氏、紫村元尚氏

(3) グループワーク～実践者に学ぶ～



視覚障害・肢体不自由・車イスユーザー・ボランティア・社協職員等、多様な参加者が学びを深めあった。20代から高齢者まで多世代のグループワークで互いを知る機会となった。

……【第2回】……

日時：2月25日(火) 10時～15時

会場：すこやかプラザ3階 多目的実習室

講義：『学校における福祉教育お役立ち講座』

講師：坂本晃一氏(墨田区立菊川小学校、全社協福祉教育推進委員会委員)

【午前の部】講義とグループ演習①

「楽しくお互いを知るために～多様な疑似体験・コミュニケーションゲームを通して～」

【午後の部】講義とグループ演習②

「小学校のプログラムを協力して作成しよう～推進員に必要な”評価と改善の力”を活かして～」

講義と演習を繰り返す形式で、学校の福祉教育の基本や現状と課題を学び、様々な疑似体験をしながらバースデーチェーンや紙コップ積み上げゲームを行なった。

紙コップ積み
上げゲーム→

講義の様子↓



アイマスク・弱視
めがね・2枚重ね
の軍手等で障害疑
似体験をしながら
声を掛け合う。

後半は、グループ毎に小学5年生を想定したプログラムの作成を行なった。具体的で今後役に立つ内容だったと参加者から好評を得た。

〈受講者アンケートより〉

- 自分が行なっている福祉教育が合っているか常に不安に思っていました。勉強と、他の方とのつながりを持ちたく受講しました。
- 福祉教育の講師として活用できることが学べた。
- 2日目のゲームの体験が今後活かそう。午後の学習でグループワークで取り組んだことが良かった。
- 明日からでも実践できそうな具体的な内容が多く、大変勉強になりました。実際の学校現場のお話を聞いて、参考になりました。有意義な研修を誠にありがとうございました！また是非受講したいです。

〈養成研修を終えて〉

ねっと相談役 坪井敏衛

世界情勢が激しく変化しても変わらない心は「ふくしのこころ」です。

『「共に生きる力を育む」福祉教育実践を県内に広げよう』を主眼に、福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修（前2回）を開催したところ、多数の参加をいただき成果のある研修会となりました。ご後援をいただいた埼玉県社会福祉協議会に厚く御礼申し上げます。そして何よりご多忙のなか、ご講義いた

だいた県社協の熊井英朗地域福祉部長様並びに坂本晃一先生に感謝申し上げます。また、実践者に学ぶ演習を楽しく担当された中島満・紫村元尚の両氏、日ごろの実践を報告された今井光子氏及び木野ゆずき氏にもお礼申し上げます。

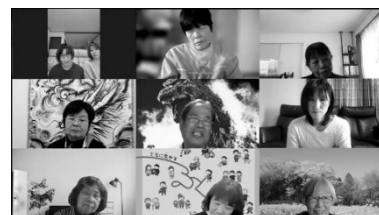
参加者の感想を拝見すると、気付きや体験をとおして今後も学び実践し、ともに生きる力を育んでいきたいという熱意を強く感じました。併せて、仲間が増えることの心強さも覚えた研修となり、心満たされた思いです。

報告 まなびばしゃべりばカフェ

まなびばしゃべりば春カフェ
My View(マイビュー)～私の景色
私がアメリカ留学をめざしたわけ

話題提供者：小林心咲(みさき)氏
電動車いすユーザー（吉見町在住）

3月27日(木)、
オンラインで春カ
フェおこないまし
た。(参加11名)



推進員養成研修に初参加されたご縁で話題提供をお願いした、現役大学生の小林心咲さんは「私が見てきた風景と思いをお話したいと思います。」と話し始めました。

幼少期は脳性マヒという障害を意識せずに楽しく過ごしたものの、学年が上がる過程で筆舌に尽くしがたい経験があったそう。中学では学校行けなくなり悶々と過ごす日々。

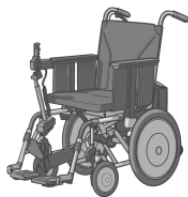
なんでこんなことになったのかといろいろ調べるうちに、バリアフリーの先進国、特にアメリカの情報に出会い留学を目指したとのこと。目標を持ち、学ぶ環境を勝ち取り、たくさんの方々と理解ある先生にも巡り会い、

大学生となって、単身でアメリカ留学を果たしました。

アメリカのバリアフリーの面で驚いたことは、どの場所にも車いすが通る事ができるボタン式の自動ドアがありスムーズに建物に入れること。二つ目は道路が日本よりも広くどの大きさの車いすでも移動しやすいこと。そして三つ目は、車いすの人々や他の障害者の方々に対し、人々が日本よりやさしいこと。

「たくさんの方々が頻繁に私に声をかけてくれたからです。アメリカの人々の心もバリアフリーだと思いました。」日本では声を掛けてくれても頻繁というわけではなかったとのこと。

そして、バリアフリーには物理的バリアフリー、制度的バリアフリー、文化情報面でのバリアフリー、そして意識上のバリアフリーがあるという心咲さん。この中ですぐにできるのが意識上のバリアフリー。意識上のバリアフリーが根付くようお願いながら「将来、様々な障害を抱えた人々が生きやすい社会になるよう、私にできることをやっつけていこうと思います。」と力強く結びました。



寄稿

出会った人と、言葉に、一筋の光を感じて ～将来に希望も持てなかった時に～

吉田より子&盲導犬カレン（嵐山町）

思い返しますと20年前ぐらいだったでしょうか。60歳の定年まで頑張ろうと働いていたのですが、目の難病を宣告され、50歳を前に退職に追い込まれていました。仕事の能率も悪くなるし、通勤時、特に自宅までの帰り道、何度か迷い人になり、心細い思いをしたものでした。そんなこともあり仕事は無理と決断し、のんびりした生活をしていました。

そんな時、社会福祉協議会の職員に、ボランティアの講座のお誘いを受けました。

なんで私がボランティアをする??いずれ全盲になる私を誘うのかなあ、と不快さえ覚えました。将来全盲になるであろう私にボランティアだなんて…と、違和感さえ覚えました。

職員さん曰く、ほかにもいろいろな障害の方も受講するのよ。障害あるなしにかかわらず受講できる講座だから大丈夫、と。

もし、そのお誘いを断っていたら今の私は存在していなかったでしょう。

受講して、「私も皆さんと一緒に、普通に生きてっていいんだあー。生きていけるんだー。」と、なんか心がほわーっと暖かくなったように感じました。

それが、一日目の講座（注）。

原田正樹先生との出会いでした。原田先生の柔らかな語り口に魅了されました。将来に夢も希望もない頃でしたから、その固い心が溶け始めていくのを感じたことを覚えています。

（注）埼玉県社会福祉協議会「埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修」
2000～2010年まで毎年、夏に行なわれた。

20代半ばから見えづらさを感じ、眼鏡を買い替えようと眼科に行きました。そこで告げられたのが難病という診断でした。将来は全盲になり仕事も生活も困難になるでしょう、と。「ええっ?なんで?どうして?私が?…」でした。

家族にも兄弟姉妹にも誰にも内緒にしていました。そして、ある時、私の歩き方や行動を見ていた姉が言いました。どうしたの?なんでそんな歩き方をするの?と。

その後、難病のことを告げました。姉が言ってくれました。退院したら、私があんたの目になってあげるからね、大丈夫と。しかし、その姉も癌に打ち勝つことができず天国に行ってしまいました。

この先、私は…と悲しみと心細い思いから抜

け出せないでいました。

思い返しますと、走馬灯のように次から次へといろんなことが思い出されます。

ある日の夕ご飯の支度をしていた時でした。中途半端な見え方だったので、何をやっても失敗の連続でした。それに押しつぶされて心が破裂してしまいました。そして、大粒の涙がこぼれ、ワーワーと泣いてしまいました。

それに驚いた夫は、私見え方や気持ちにようやく気づいてくれました。いいえ、気づいていたのかもしれませんが、敢えて気づかないふりをしていたのでしょう。難病を告白した時も、「だから何なんだ？」と。そして、「今、見えるうちにしっかりと見て、目に焼き付けていけばいいじゃないか」と。

病気が進行しほぼ見えなくなって来た頃、夫は慰めようと思ってか、旅行しようかと言いました。「ええっ？行きたくない。どこに行っても何も見えないのだから、家にいることと変わらないもん。行きたくない。無駄だもん」と言い返したこともありました。

まあ、本当にいろいろな思いをしてきました。ですが、今の私は、そんなこともあったな一と思えるようになりました。

現在は、行きたければ行く。会いたければ会いに行く。やりたいことがあればやってみる。毎日の日常生活で、笑いのない日はほぼないかもしれません。

今は、2頭目の盲導犬と暮らしています。歩きの助けだけではなく、夫との間のクッションにもなってくれています。

楽しい我が家です。



若者のふくし教育研究会コーナー

「若者のふくし教育研究会」のこれから

若者のふくし教育研究会
事務局長 小川和広

4月から“若者への福祉教育研究会”から

“若者のふくし教育研究会”（以下：わかふく）へ名称を正式に変更しました。

今までは、福祉教育に携わってきた実践者、研究者たち（大人）が若者へ福祉教育を伝えるために、実践から学んだことを皆で共有し学び合った時間でした。今年度からはこの学んだ事を活かし、実際に若者が主体的に様々なフィールドワークでサービスラーニングを学び、地域で支え合い活動を実践できることを主な目的として、活動していくことを考えています。

まずは“災害支援で得られるサービスラーニング”（*災害ソーシャルワーク）の機会の創設のために、3月末に“わかふくスタッフ”で“能登半島災害支援”を経験してきました。未だに復興の道のは遠く感じましたが、被災者の皆さんからは大きな“元気”をいただきました。

現地の支援団体とのつながりで、今夏に予定している“被災地スタディーツアー”に向けて良い準備ができたと感じています。

県社協からの情報

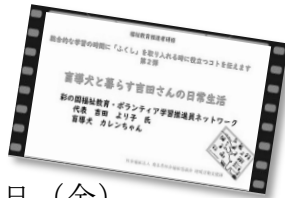
福祉教育推進者研修

「総合的な学習の時間に「ふくし」を取り入れる時に役立つコトを伝えます 第2弾」として動画配信により実施します。

本研修では3本の動画を配信しています。

1. 埼玉県社会福祉協議会埼玉県ボランティア・市民活動センター奥野より「はじめに～こどもたちと「ふくし」を考える時間を～」をテーマに福祉教育についてお話しします。
2. 鶴ヶ島市社協牧野郁子氏、鶴ヶ島市障害者支援ネットワーク協議会宮地佳美氏より「導入編～福祉教育啓発パンフレット「ともに生きる『ふ・く・し』について」活用術～」をテーマにお話と対談をします。

3. あったかウエルねっと吉田より子氏より
「講話編～盲導犬と暮らす吉田さんの生活～」をテーマにお話しいたします。



配信期間：令和7年3月28日（金）

～令和8年3月16日（月）

※事情により時期を変更する場合がございます。

最終申込期限：令和8年2月28日（土）

申込み：<https://ws.formzu.net/dist/S34351057/>



吉田さん、撮影に御協力いただきありがとうございました。今後も様々な動画を撮影し配信していこうという野望をもっています。引き続きご協力をお願いします。

2024年度の地域福祉推進プラットフォーム 実施報告

2024年度	実施日	テーマ	参加者数
第14回	5月18日	誰もが幸せに暮らせる地域共生社会に向けて	56名
第15回	8月21日	ゼロから知ろう！発達障がいについて	57名
第16回	11月15日	若年性認知症への理解を深める～自分そして身近な人のために～	35名
第17回	2月19日	社会福祉法人と社協の連携について考える	81名

今年度も標記事業にご協力・ご参加いただきありがとうございました。

県社協の助成事業が始まっています

「ふれあいの詩基金助成事業」「こども食堂・未来応援基金助成事業」は募集開始しています。

※「ひまわり基金助成事業」は7月募集開始予定です。

詳細はHPに掲載していますのでご確認ください。

◇埼玉県ボランティア・市民活動センターHP(助成金情報ページ)→



https://www.fukushi-saitama.or.jp/site/volunteer/research_3.html

事務局情報

ねっとホームページURLの変更

利用していた無料サーバー終了に伴い、URLが変わります。



新URL <http://attaka2025.stars.ne.jp/>

会費振込先のお知らせ

ねっと活動は会員の会費で運営しています。(年1000円、賛助会員一口500円)

原則として口座振り込みとなりました。振込手数料についてはご負担をお願いしております。どうぞご理解のほどお願いします。

振込先：埼玉りそな銀行武蔵浦和支店

普通預金口座番号：5015782

名義：彩の国福祉教育ボランティア学習推進ネットワーク

メーリングリストの登録にご協力を

会員及び賛助会員の方にはメーリングリストで情報をお届けしています。メールアドレス変更の場合は事務局までお知らせください。

ねっと事務局 須田 049-283-1865(FAX)

事務局アドレス attakawelnet@gmail.com

編集後記

少しずつ対面の機会が増えてきましたね。遠路出かけなくても済むオンラインは便利だけど顔を合わせるのがやはり嬉しい。これからも出合いを大切に、地域のつながりをフル活用していきましょう～♪

発行：彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク(通称：あったかウエルねっと)

編集：あったかウエルねっと(情報担当)

連絡先：埼玉県社会福祉協議会地域活動支援課

TEL：048-822-1435 FAX：048-822-3078

Mail：vc@fukushi-saitama.or.jp